

開催日時：平成30年2月13日（火）10:00～12:00

開催場所：釧路地方合同庁舎5階 第1会議室

釧路湿原自然再生協議会 第4回地域づくり小委員会 議事要旨

■議事1：第1～3回地域づくり小委員会の開催概要

事務局から、資料に基づき説明。

○地域づくり小委員会の目標について再確認

～地域産業と連携した湿原の「ワイズユース（賢明な利用）」により、釧路湿原を保全・再生することにより、将来にわたって地域産業が豊かになる取組を進める～

○4つの行為目標

- ・観光など地域振興による湿原の賢明な利用
- ・地元産業との連携の検討
- ・湿原の利用に関するガイドライン・ルールづくり
- ・産業や暮らしにおける環境や景観への配慮

○3つの成果目標

- ・自然再生と地域産業・文化の振興の両立
- ・湿原利用のルール作り
- ・地域住民や来訪者における環境負荷軽減策の認知・定着

○これまでの地域づくり小委員会開催概要

- ・第1回地域づくり小委員会（平成28年1月27日、委員38名）
報告：釧路湿原自然再生協議会について、釧路湿原で行う自然再生事業について、
釧路管内観光の現状について
検討：今後の地域づくり小委員会の進め方について
- ・第2回地域づくり小委員会（平成28年9月28日、委員27名）
報告：第1回小委員会のまとめ、参加団体の取組状況、
当面の検討事項に係るアンケート実施結果
検討：今後の地域づくり小委員会の進め方について
- ・第3回地域づくり小委員会（平成29年2月14日、委員36名）
ワークショップ：活動情報の共有、議論したい内容の協議、全体共有

■議事2：今後議論したい内容について

事務局から、資料に基づき説明。

○特定非営利活動法人 美しい村・鶴居村観光協会から話題提供

- ・鶴居村ですすめる「農泊」は、農村で食や体験を楽しみ、のんびり過ごす「滞在型観光」のことで、グリーンツーリズムと同義。
- ・鶴居村は、釧路湿原はじめ豊かな自然環境に恵まれ、フットパスやサイクルツーリズム、ハーブを使用した料理など、地域に根付いた観光コンテンツを構築しているが、観光客は「通過型・日帰り観光」が多いことが課題。
- ・滞在型観光促進のため、「暮らすように旅をする」をテーマとしたモニターツアーを実施し、好評であった。ここならではの体験、地域の食、地元住民との交流、が必須と考える。
- ・またサイクルツーリズム促進のため、村の宿泊施設と連携し、コースの提案、サイン整備などを段階的に進めている。
- ・農泊事業を軸に、地域全体で話題共有し将来像を再認識することで、滞在型観光への転換を図っていきたい。

○竹中委員から話題提供

- ・地域産業と自然環境は深い関わりがあるため、自然の保全には暮らしに関わる人たちの協力が不可欠。
- ・自然環境の保全を行うことが各産業振興につながるということを示せれば、地域産業を仕事としている人たちが「主体的に」環境保全に取り組んでもらえる。
- ・各々が考える社会問題に対し、環境保全がどう貢献していけるかが大事。
- ・地域産業や環境団体などに関わる人にヒアリングを行ったが、自然環境の保全が産業活動・産業振興の妨げになると考えている人はいなかった。
- ・羽幌町にて「シーバードフレンドリー認証制度」を実現に向け検討中。自然環境に配慮した地域産業の取組や商品を認証し啓発することで、付加価値をつけるという内容。
- ・地域産業や環境保全に関わる団体や行政を集め、実現に向けたワーキングチームを立ち上げ、地域の現状、課題の解決、認証制度の将来像等について議論している。
- ・今後は、ワーキングチームから協議会に発展させると共に、来年度からは実際に認証を行い、過程から啓発までの課題の洗い出し、環境配慮の見える化などを行い、地元民に当該認証制度について知ってもらう。
- ・しばらくは、行政が主体となるが、いずれは地元が支えていくことが大事。
- ・地域づくり小委員会には、湿原保全と地域産業を繋げる、コーディネートができる組織や人材の育成が必要。また、地域で継続的に自然再生事業をやってもらうためには、地元市町村の協力が不可欠。

○取組及びテーマに対する意見

- ・ 釧路湿原がテーマになっているが、流域全体を考えると釧路川の役割を置き去りにしてはいけない。釧路川にシャケが戻ることで、地域再生の力になると考える。
- ・ 地域産業と保全体制の連携が大事であるため、地域産業や湿原保全に関わる団体等との対話、ヒアリングの機会を持つことが必要
- ・ 各地域や団体で実施されている既存の取組を同じく行う必要はない。しかし、既存の取組に、当委員会の取組を+αすることは大事になってくる。コスト削減且つ取組の発展につながる。
- ・ 来訪者向け・地元民向けの2つの雰囲気づくりが必要。湿原保全には、観光客にもルールを守ってもらうことが大切。

○今後の進め方に対する意見

- ・ 議論したい内容の幅が広いので、行為目標の分け方の整理が必要。
- ・ 行為目標の1つである「環境・景観」については、他の行為目標と重なる部分が多いので、「環境・景観」を踏まえた上で残り3つのテーマごとに具体的な取組について考えていくのが望ましい。
- ・ 事務局としての案を提示してほしい。

■今後の地域づくり小委員会の進め方

- ・ 行為目標である「観光」「産業連携」「ルール」の3つをテーマとし、それぞれ「環境・景観」を配慮した取組について考えていくこととなった。
- ・ 各委員が今後取り組んでいきたいテーマ及びその具体的な取組案等について、アンケート調査を行い、事務局で意見の取りまとめを行うこととした。
- ・ 次回は各テーマの具体的な取組及び進め方、ワーキンググループの結成について議論することとした。